

最上町 橋梁長寿命化修繕計画



平成 24 年 3 月

令和 8 年 3 月 (更新)

山形県 最上町 建設水道課

1. 最上町の町政紹介

【最上町の地勢】

最上町は山形県の北東部に位置し、周囲を奥羽山系の山々に囲まれています。町の総面積330.37km²のうち、81%に当たる266.53km²が山林になっています。市街地は町域中央部の盆地（小国盆地）に形成されており、管理橋の多くは、この町域中央部に架橋されています。

【最上町の気候】

気候的には寒冷多雨で、夏季には東風が吹きぬけ、冬季は多雪で町全域が特別豪雪地帯となっており、山間部へ向かう路線の多くは降雪期に冬期閉鎖となります。また、盆地地形に位置するため、冬は気温も低く、朝と夜の気温差が大きい気候になっています。このため、コンクリート部材においては、凍害など積雪寒冷地特有の損傷により劣化が進行しています。

最上町の位置

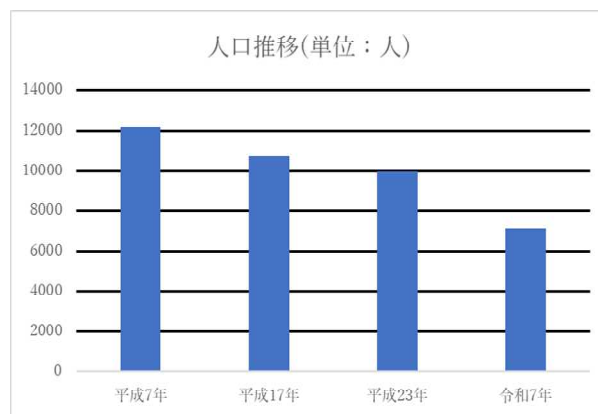


【最上町の人口】

平成7年の人口は12,174人であったが、平成17年では10,761人、平成23年には9,987人、令和7年現在では7,144人と年々減少傾向にあります。

また、65歳以上の高齢者の人口は、全体の約3割以上であり、全国や山形県と比較すると人口に占める高齢者の割合が高くなっており、高齢化が進んでおります。

最上町の人口

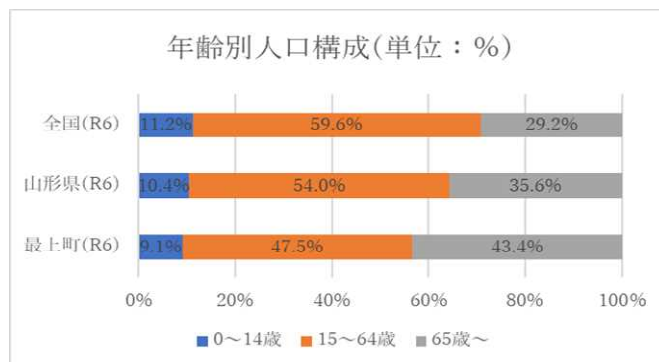


最上町ホームページより

【最上町の交通】

最上町では1世帯あたりの自動車保有台数が2.7台と高く、町民生活の中での自動車への依存度が大きくなっています。

全国、山形県、最上町の人口構成



各ホームページより

2. 長寿命化修繕計画の背景・目的

(1) 背景

○最上町が管理する橋梁65橋のうち、高齢化橋と言われる橋齢50年を超えた橋梁は、48%（31橋）ですが、20年後には89%（58橋）となり、半数以上の橋が高齢化橋となってしまいます。今後、これらの橋梁に対して、これまでの「対症療法的維持管理」を継続した場合、維持管理コストが非常に高くなり、適切な維持管理が困難になる恐れがあります。

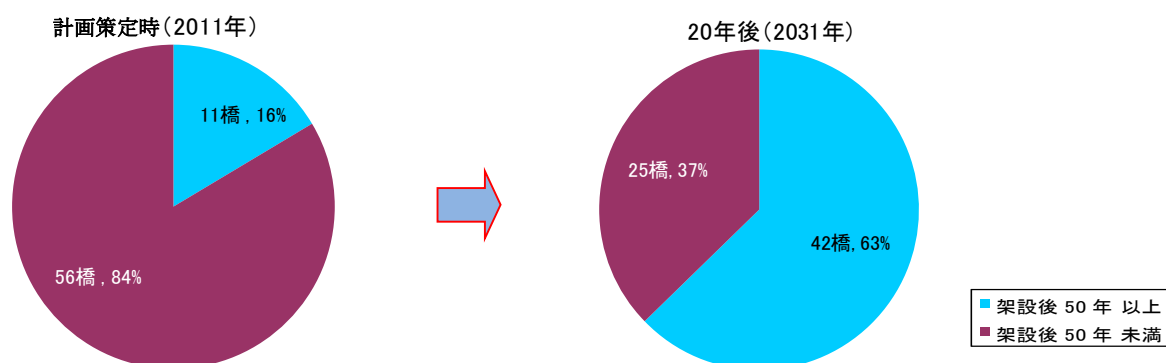
※R8. 3. 2時点で町が管理する橋梁は65橋

○最上町の地形が盆地となっていることから、冬は気温が低く、朝と夜の気温差も大きい気候になっているため、コンクリート部材においては、凍害など積雪寒冷地特有の損傷により劣化が進行しています。（最上町では凍結抑制剤の散布はなく、除雪車により除雪を行っています）

○点検および診断の結果、補修が必要または望ましい橋梁の割合は42%あり、適切な維持管理を行わないと通行止めや通行規制が必要な橋梁が今後、増加する恐れがあります。

○最上町では1世帯あたりの自動車保有台数が2.7台と高く、町民生活の中での自動車への依存度が大きいいため、日常の生活をおくる上で橋は重要な役割を担っています。

○近年多発する地震や大雨のような災害時に輸送路や避難路を保つことは、町民の暮らしにおける安全・安心を確保するうえで重要な課題となっています。



(2) 目的

前記のような背景から、主に以下の3つの項目を主目的として、長寿命化修繕計画を策定します。

①長寿命化およびコスト縮減

これまでの対症療法的な対応から計画的かつ予防保全的な対応に転換することにより、橋梁の長寿命化を図るとともに、トータルとしての維持管理費用の増大を抑制する。

②予算の平準化

計画的な維持管理を行い、補修工事の早めの実施等により、将来における維持管理費用の集中を抑制する。

③道路ネットワークの安全性・信頼性の確保

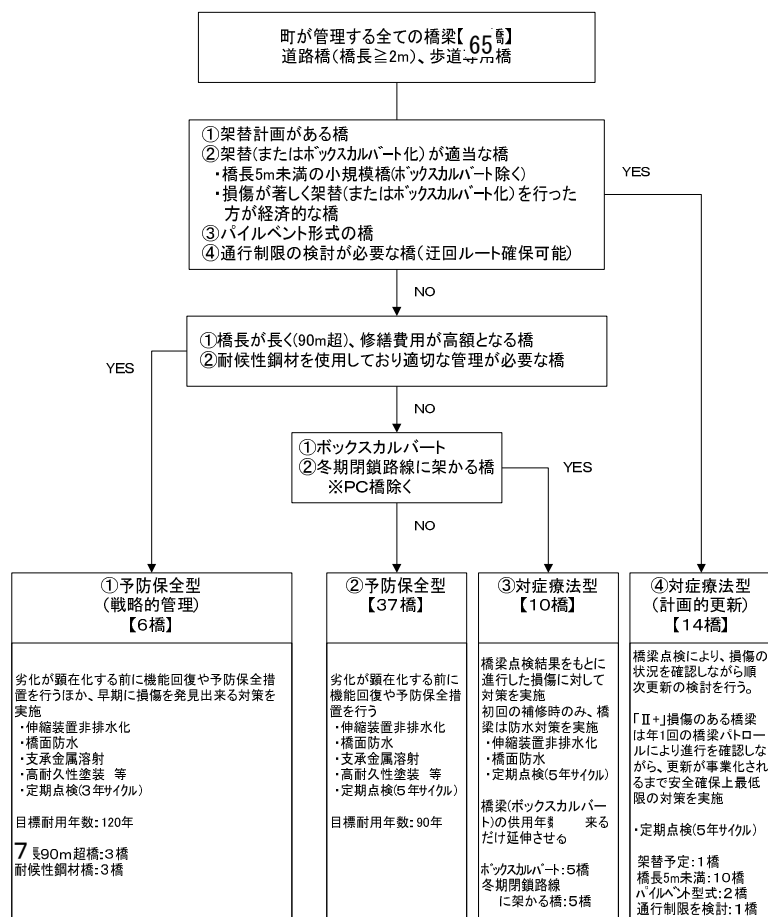
橋梁点検や修繕・架け替えを計画的に進め、事故等につながる損傷を早期に発見するとともに、生活や一般交通に支障を及ぼさないよう橋梁を最適な状態に保ち、道路ネットワークの安全性、信頼性を確保する。

3. 健全度の把握及び老朽化対策における基本方針

1) 管理区分の設定

○ライフサイクルコスト（供用後90年程度のトータルコスト）を考慮し、橋梁諸元や構造形式、架橋条件を踏まえた4つの区分を設定します。

図 3-1 管理区分選定フロー



※ボックスカルバートへの構造変更は、「道路土工 カルバート工指針」の一般的な適用範囲（B＝1～6.5m）のうち、5mを目安値としました。

※ボックスカルバートへの構造変更は、現地の状況等を踏まえ継続的補修の実施（対症療法的措置）と比較のうえで決定します。

※「Ⅲ」の損傷とは、早期に措置が必要な状態（早期措置段階）を示します。

- **計画的な維持管理の推進:** 定期点検結果に基づき、橋梁の状態を正確に把握し、中長期的な修繕・更新計画を策定します。
- **ライフサイクルコスト(LCC)の縮減:** 損傷が軽微な段階で早期に補修を行うことで、大規模な改修や架け替えの時期を遅らせ、トータルの財政負担を軽減します。
- **安全性・信頼性の確保:** 第三者被害の防止や交通ネットワークの信頼性を維持するため、安全性に影響する変状を優先的に対策します。
- **持続可能な体制づくり:** 効率的かつ着実な実施に向け、自治体等における点検・診断・対策の一連のプロセスを継続的に改善します。

予防保全型（戦略的管理）橋梁（7橋）の例

長大橋（橋長 90m 以上）である下白川橋、絹出橋、絹出橋歩道橋、義経大橋、耐候性鋼材橋である薬師原橋、清水沢橋、親倉見橋については、架け替えや大規模補修が難しいことから、点検頻度を増やすなど重点的に維持管理を実施（目標寿命 120 年を目指す/一般的な橋梁の寿命の 2 倍程度）します。



2) 健全度の把握

【橋梁点検】

○山形県橋梁点検要領(案)に基づいた定期点検の実施（対象：全管理橋梁）

管理区分や補修工事の実施状況に応じて、以下に示す時期またはサイクルで点検を実施します。

- ・ 予防保全型（戦略的管理）橋梁：標準点検（近接）1 回／5 年
- ・ 予防保全型（戦略的管理）以外の橋梁：標準点検（近接）1 回／5 年
- ・ 新設橋梁：竣工後 2 年目

○異常時点検の実施（対象：全管理橋梁）

- ・ 地震や大雨など災害が発生した際に実施します。

○橋梁パトロールの実施（対象：対処療法型（計画的更新）橋梁、冬期閉鎖路線に架かる橋梁）

- ・ 町職員が実施し、早期措置段階（Ⅲ）が生じているが、ただち（次回点検まで）に事業化出来ない場合、1 年サイクルで損傷の進行性を継続確認し、更新が事業化されるまで安全確保上最低限の対策を実施します。

（対策時期・工法については、山形県県土整備部による技術助言を受けます）

- ・ 冬期閉鎖路線に架かる橋梁は、閉鎖解除前に目視点検を行い、橋梁の安全性を確認します。

【橋梁診断】

橋梁点検結果をもとに対策の必要性および、対策時期を適切に判断するため、対策区分に従い橋梁診断を専門家が実施します（山形県県土整備部による技術的助言を受けて診断を行います）。

表 3-1 対策区分

診断結果の判定区分			状態
判定（旧）	判定（新）	段階	
OK	I a	健全	構造物の機能に支障が生じておらず、措置の必要がない状態
Ⅲ	I b		構造物の機能に支障が生じておらず、当面措置の必要はないが、予防措置の観点から状況に応じて措置を講ずる場合もありうる状態
Ⅱ	Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障は生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅱ+	Ⅲa	早期措置段階	道路橋としての構造安全性への影響はないが、第3者被害等の観点で、早期に措置を講ずるべき状態
	Ⅲb		構造物の機能（主として道路橋としての構造安全性）に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
I	Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

【特別点検、詳細調査】

橋梁診断により、特別点検、詳細調査が必要と診断された橋梁について専門家が実施します。

3）日常的な維持管理の実施

○軽微な損傷や機能不全及び漏水に対しては、予防保全的措置として簡易な予防対策を行い、劣化要因を早期に除去します。

- ・ 高圧洗浄による排水桝、排水管の土砂詰まりの解消及び橋座面の堆積土砂の撤去
- ・ 張出し床版先端や橋脚梁部への水切りの設置や伸縮装置からの漏水の導水処理
- ・ 高欄等の軽微な腐食や塗膜傷などのタッチペイント等による再塗装

○鋼橋の支承部は大きな地震の際に損傷しやすいため、徒歩や梯子で支承部に容易に近接出来ない鋼橋については検査路を設置します。（虹の橋）

○地域住民と連携して、橋を守るための取組み（清掃，草刈り）の実施を今後検討していきます。

4）技術者（町職員、施工業者）の育成

○山形県等が主催する橋梁点検や補修に関する講習会等に参加し、橋梁の劣化損傷特性、点検技術手法、対策工法の選定などの知識や見識を深め、日常管理に役立てます。

○山形県が主催を計画している補修工事に関する講習会に地元施工業者の積極的な参加を促し、補修工事の品質向上に役立てます。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替え、集約・撤去に係る費用縮減に関する基本方針

○損傷が深刻化して大規模な修繕を実施する事後保全から、定期的に点検を実施して損傷が深刻化する前に修繕を実施する予防保全への転換を目指します。



図 4-1 事後保全から予防保全への転換のイメージ

- 橋梁長寿命化修繕計画に基づく、初回修繕工事の際は全ての橋梁について、防水対策（伸縮装置の非排水化、橋面防水層設置）を実施し、橋梁の耐用年数の延伸を図ります。
- 高耐久性塗装（鋼部材）やコンクリート塗装、支承の金属溶射等、機能や効果を長い期間持続出来る材料を使用し、塗り替え回数を減らすことにより修繕費用の縮減を図ります。
- 損傷が著しく架替または構造変更を行った方が経済的な橋や架替または構造変更により維持管理費用を低減出来る型式の橋（橋長5m未満の小規模橋、パイルベント形式）については、橋梁点検により損傷の状況を確認しながら順次更新の検討を行います。
- 将来的には、全ての橋梁について予防保全型管理に移行することを目指します。
- 修繕計画の当初は、事後保全的な補修を実施していきますが、早期措置段階（Ⅲ）が生じているが、ただちに（次回点検まで）事業化出来ない場合、1年サイクルで損傷の進行性を継続確認し、損傷が著しく進行する場合は直ちに事業化を行います。

● ネットワーク機能の確保と最適化

- 地域住民の生活や避難等に必要な機能を維持しつつ、周辺の橋梁との役割分担を考慮し、本当に必要な橋梁を見極めます。利用頻度の低い橋梁や近接して複数存在する橋梁について、集約（架け替えによる一本化など）や撤去を検討します。

● トータルコストの縮減（LCCの最小化）

- 将来的に更新が必要となる多数の橋梁をそのまま維持し続けた場合、自治体の財政を圧迫します。不要不急の橋梁を撤去・集約することで、中長期的な維持管理・更新費用の総額を大幅に削減します。

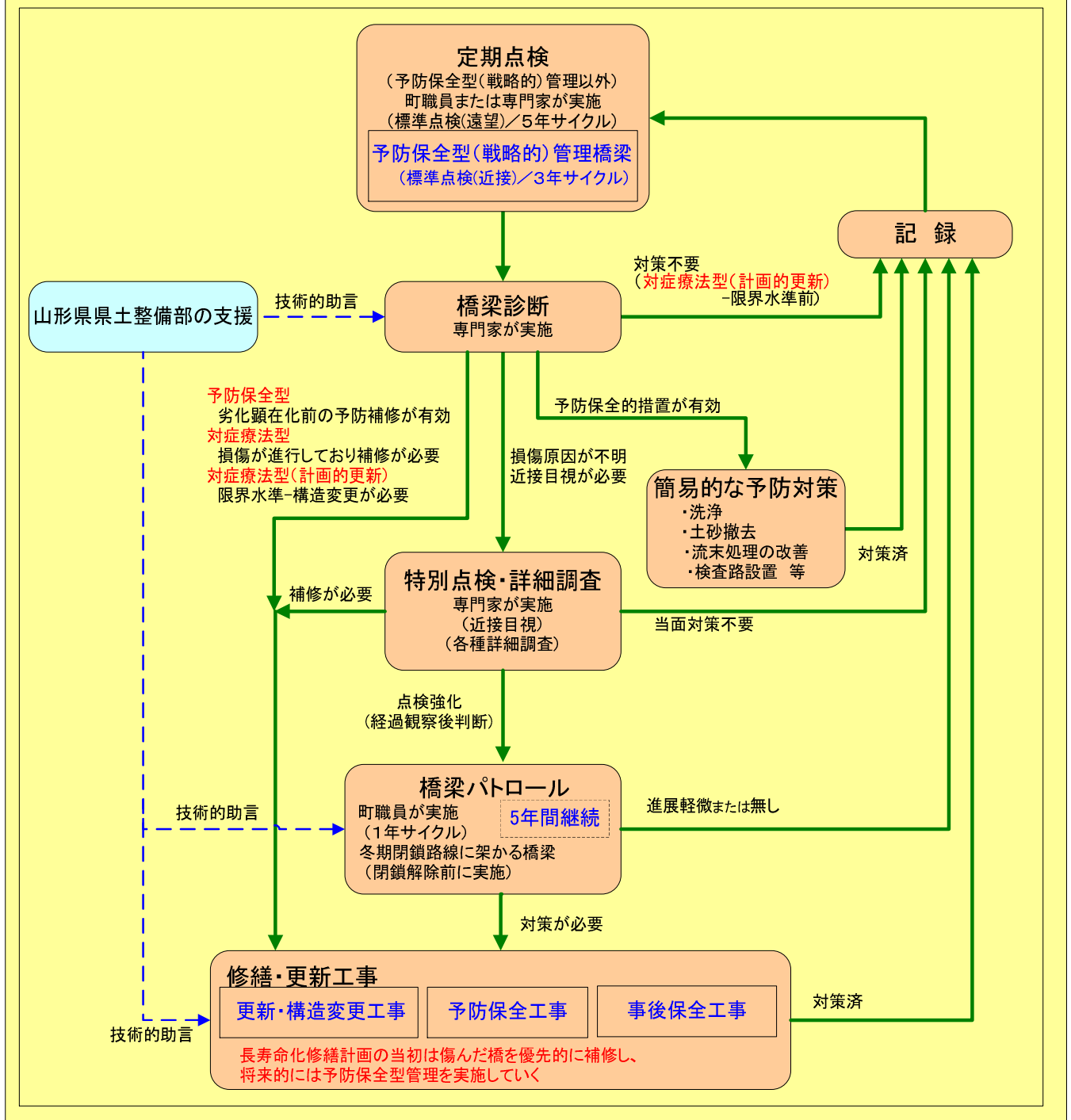
● 合意形成と計画的な推進

- 橋梁の集約や撤去にあたっては、地域住民の利便性や安全な迂回路の確保、関係機関との調整が不可欠です。事前の十分な説明と合意形成を図りながら、個別施設計画などに位置づけて計画的に進めます。

「守るべき橋」の長寿命化を進める一方で、「減らすべき橋」を計画的に集約・撤去することは、これからの持続可能なインフラ管理において極めて重要なアプローチとなっています。

○点検、診断、修繕の橋梁マネジメントサイクルを定着化させ、効率的・効果的な維持管理を実施します。

橋梁マネジメントサイクル



6. 橋梁長寿命化対策における新技術等に関する基本方針

- **点検・調査の効率化と高度化**

- ドローン、AI 画像解析、ロボット、非破壊検査などの新技術を活用し、近接目視が困難な箇所の点検や、作業員の安全確保・省力化を図ります。

- **補修・補強における長寿命化技術の適用**

- 高耐久性材料や新工法を用いることで、従来よりも部材の寿命を延ばし、将来のメンテナンス頻度やトータルコストを削減します。

- **CIM/BIM やデータ活用の推進**

- 橋梁の点検履歴や図面等の情報をデジタル化・一元管理し、維持管理の効率化や次回の修繕計画の精度向上につなげます。

- **新技術導入への環境整備**

- 国などが示す活用ガイドラインや新技術データベース（NETIS 等）を参考にし、現場の条件に適した技術を適切に選定・試行します。

新技術を活用することで、点検の精度を保ちつつ作業負担を大幅に軽減し、持続可能な橋梁の維持管理体制を構築することを目標とする。

5. 計画の概要

1) 対象橋梁

平成23年度の長寿命化修繕計画は、全管理橋67橋（ボックスカルバート等含む）について計画を策定しました。（R8. 3. 2時点で町が管理する橋梁は65橋）

ボックスカルバートも道路を構成する一部であり、常に健全性を把握する必要があるため、長寿命化修繕計画の対象としました。

2) 点検結果より診断した管理橋梁の現在の状態

全管理橋梁65橋（R8. 3. 2）を診断した結果を「緊急対応や補修が必要または望ましい橋」、「補修が当面不要あるいは補修が不要な橋」に分類しました。

最上町が管理する橋梁のうち、緊急対応や補修が必要または望ましい橋の割合は42%（27橋）でした。これらの橋梁については、今後10年間で対策を行います。

緊急対応や補修が必要または望ましい：27橋（42%）

- ・判定区分Ⅳ（緊急措置段階）：0橋
- ・判定区分Ⅲ（早期措置段階）：3橋
- ・判定区分Ⅱ（予防保全段階）：24橋

補修が当面不要あるいは補修が不要な橋：38橋（58%）

- ・判定区分Ⅰ（健全）：38橋

※今後、5年ごとの定期点検を行い、管理橋梁の状態を継続的に把握するとともに診断結果の更新を行います。

3) 計画内容

○補修計画

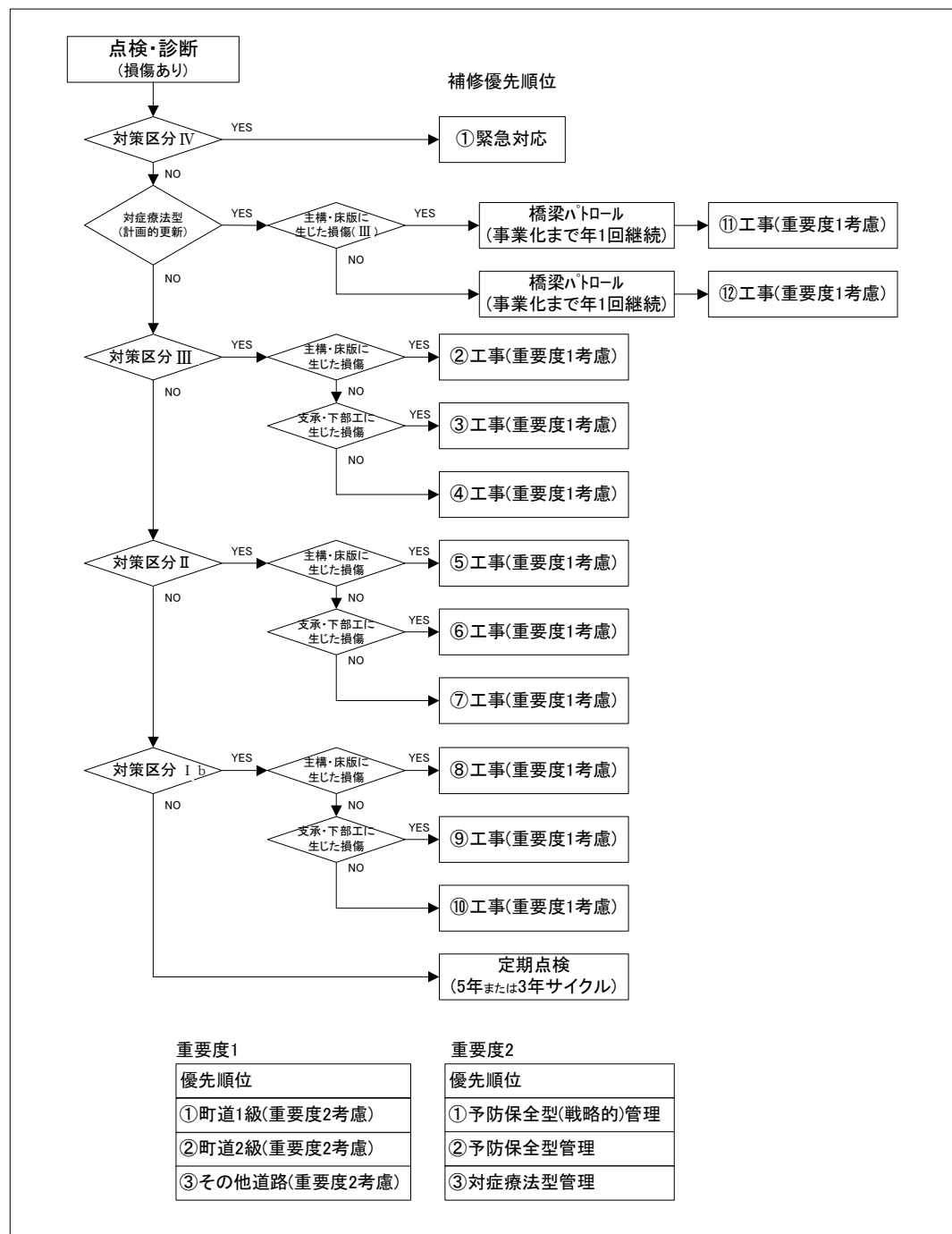
- ・鋼製の防護柵については、緊急措置段階（判定区分Ⅳ）、早期措置段階（対策区分Ⅲ）、予防保全段階（判定区分Ⅱ）と評価された橋梁について、更新を行います。
- ・コンクリート製の防護柵については、現在の基準（安全性）を満たす鋼製の防護柵に順次更新を行います。



写真 5-1 コンクリート製防護柵

- ・診断において、緊急措置段階（判定区分Ⅳ）、早期措置段階（判定区分Ⅲ）予防保全段階（判定区分Ⅱ）、予防措置の観点から状況に応じて措置を講ずる場合もありうる状態（判定区分Ⅰb）と評価された橋梁は、対策の緊急性、損傷を受けた部材の重要性、路線の重要性、管理区分を考慮し、事業の優先順位を定めました。

表 4-1 対策優先度順位



○架替（構造変更）計画、管理方針の検討

- ・「損傷が著しく、補修では必要な安全性が確保出来ない橋梁あるいは、架替（構造変更）を実施する方が補修よりもコスト縮減に繋がる橋梁（判定区分Ⅳ）」は架替（構造変更）または今後の管理方針の検討を行います。
- ・令和7年度の定期点検の結果、損傷が著しく、地震に対しても弱い構造の富沢橋（人道橋）については、現在通行制限を設けておりますが、点検・修繕・更新等に係る中長期的な費用等を考慮し令和11年度の5巡目点検までに、施設の撤去を検討します。
- ・「早期に補修が必要（判定区分Ⅲ）」と判定した橋梁のうち対処療法（計画的更新）管理の橋梁については、次回点検まで橋梁パトロール（1回/年）を継続的に実施し、損傷の進行性を継続観察し、更新が事業化されるまで安全確保上最低限の対策を実施します。
- ・「早期の補修が望ましい（判定区分Ⅱ）」または、「予防措置の観点から状況に応じて措置を講ずる場合もありうる状態（対策区分Ⅰb）」と判定した橋梁のうち対処療法（計画的更新）管理の橋梁については、直ちに補修は行わず、次回点検時に損傷の進行を確認し、再診断を行います。

○長寿命化計画

- ・計画の当初は対症療法型の管理を実施していきませんが、補修が必要な橋梁や架替えが必要な橋梁の工事と簡易的な予防対策を平行して行い、全ての橋梁について予防保全型管理に移行していきます。
- ・橋長90mを超える下白川橋、絹出橋、絹出橋歩道橋、義経大橋、耐候性鋼材橋である薬師原橋、清水沢橋、親倉見橋については、予防保全的な工事と併せて、点検頻度を増やすなど重点的な維持管理を行います（目標耐用年数120年）。
- ・ひびわれ（遊離石灰を伴う）が、特に目立ったPC橋については橋長や架橋条件によらず、全てのPC橋について予防保全型管理とし、今後、損傷が進行しないよう維持管理を行います。
- ・予防保全的な工事（伸縮装置非排水化、橋面防水、支承金属溶射、高耐久性塗装等）を行うことにより、橋梁の耐用年数を出来るだけ長くすることを目指します（目標耐用年数90年）。
- ・予防保全的な措置（路面や橋座面の土砂撤去、軽微な腐食の再塗装、検査路に設置等）を行うことにより、部材の耐用年数を出来るだけ長くすることを目指します。
- ・特定の年度に補修時期が集中し、補修予算が突出しないように、計画的な維持管理を行います。

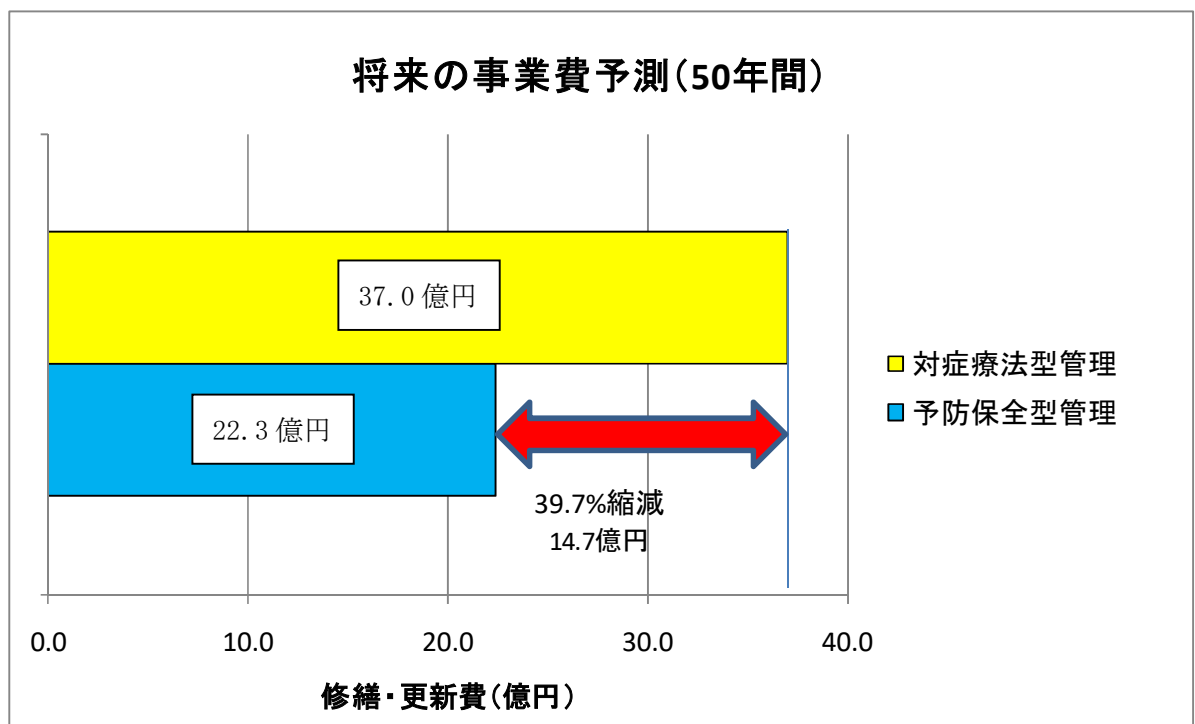
※補修計画・架替え計画については、最新の点検やパトロール結果を踏まえ、必要に応じて見直しを行います。

6. 長寿命化修繕計画による効果

○平成22年度、23年度の橋梁点検に基づく試算によれば、橋梁長寿命化修繕計画に基づく計画的な対策（5m以上 予防保全型管理）を実施した場合、全橋梁を従来の「傷んでから治す管理（対症療法型管理）」を継続した場合と比較して、今後50年間で、37.0億円→22.3億円（▲14.7億円）となり、約39.7％程度の縮減効果が見込まれます。

○損傷が進行している橋が多かったため、補修のための事業費が多く発生していますが、早期に補修を完了し、予防保全型管理を行うことにより、将来の事業費縮減を図ることが出来ました。

今後は、継続的に橋梁点検を実施し、最上町の橋梁の劣化曲線を作成し将来の事業予測の精度を向上させるとともに、予防保全的工事を計画的に行い更なるコスト縮減を図ります。



7. 今後の取組

○基本方針

管理する橋梁について、機能縮小、集約化などの検討を行い、点検・修繕・更新等に係る中長期的な費用の縮減を行い、維持管理の更なる高度化、効率化を目指します。

○新技術等の活用の短期的な数値目標

今後5年程度で管理する65橋全てについて、修繕や点検等に係る新技術等の活用の検討を行うとともに、3橋の橋梁で費用の縮減や事業の効率化等の効果が見込まれる新技術等の活用を目指します。

- ・ 今後5年程度で管理する橋梁の内1橋で新技術を活用し、往来技術と比較して約4,500千円のコスト縮減を目指す予定です。
- ・ 定期点検において、橋梁点検車及び高所作業車では点検が困難な橋梁については、高画素カメラ等の新技術を導入し、従来より安全に省力化、効率化を図ることにより5年後の点検までに約1割程橋梁度の点検費用削減を目標に努めていきます。

○集約化・撤去の短期的な数値目標

迂回路が存在し集約が可能な橋梁について、今後5年程度で1橋の集約化・撤去を検討します。将来の維持管理コストを約2,000千円程度縮減することを目指します。

8. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

1) 計画策定担当部署

山形県 最上町 建設水道課

2) 意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者

東北大学大学院工学研究科 久田 真 教授

30	太郎田橋	ヲウダハシ	下白川豊田線	1979	20.7	5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	Ⅱ	主桁：防食機能の劣化 床版：剥離・鉄筋露出・うき 床版：床版ひびわれ 防護柵：変形・欠損 伸縮装置：路面の凹凸	R7	Ⅱ	Co部材で確認されるひび割れは、乾燥収縮性のものと思われる。主桁の防食機能の劣化は腐食に移行しているが軽微である。伸縮装置からの漏水は前回点検と比較して進展はなく、経過観察とする。													未定	18,209	
31	背坂橋	セザカハシ	上満沢中線	1968	7.3	6.5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	Ⅱ	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水 防護柵：剥離・鉄筋露出・うき	R7	Ⅱ	橋梁全体として、軽微な損傷は確認されるが、構造物に支障は出ていない。措置の必要がない状態である。													令和5年修繕完了		
32	畑の沢橋	ハタノサワハシ	前森向町線	1967(推定)	6.9	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水	R7	I																
33	森ノ越橋	モリノコハシ	大堀谷地線	1989(推定)	6.3	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 地覆：変形・欠損 下部工：漏水・滞水	R7	I																
34	舎の山橋	アイノヤマハシ	上満沢置場線	1983	6.3	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	地覆：変形・欠損 防護柵：変形・欠損 下部工：漏水・滞水	R7	I																
35	背坂橋	セザカハシ	上満沢置場線	1983	10.4	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水 地覆：変形・欠損	R7	Ⅱ	橋台基礎底面つま先部の洗掘は構造物の機能に支障を生ずる可能性があるが、下流側に洗掘防止の袋詰め玉石が設置されており、早期の対策が予定され、機能の改善が見込まれていることから判定Ⅱとする。													未定		
36	上横川橋	かヨコガハシ	法田中駒杉線	1987	24.8	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 床版：床版ひびわれ 地覆：変形・欠損 防護柵：腐食・防食機能の劣化 下部工：漏水・滞水	R7	Ⅱ	伸縮装置からの漏水。													未定		
37	下沢原橋	シモサラハシ	東法田向町線	1994	9.5	5.9	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水 防護柵：変形・欠損 伸縮装置：路面の凹凸	R7	I																
38	沢原橋	サワラハシ	沢原線	1968(拡幅2008)	8.1	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水	R7	Ⅱ	下部工の損傷の拡大や伸縮装置の漏水については、経過観察が妥当													未定		
39	ヨサ沢橋	ヨサガハシ	薬師原観倉見線	1993	6.3	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水 地覆：剥離・鉄筋露出・うき 防護柵：変形・欠損	R7	I																
40	刀塘橋	カタナハシ	薬師原観倉見線	1983	26.1	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	主桁：ひびわれ 床版：漏水・遊離石灰 防護柵：変形・欠損 下部工：漏水・滞水 伸縮装置：路面の凹凸	R7	I																
41	田茂木沢橋	タモキワハシ	親倉見川線	1987(推定)	5.3	4.5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水 防護柵：変形・欠損 伸縮装置：路面の凹凸	R7	I																
42	水無川橋	ミス'ナガ'ワシ	白川野頭線	1999	14	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・滞水 下部工：漏水・滞水 地覆：変形・欠損 防護柵：変形・欠損	R7	I																
43	末沢橋	スエザワハシ	前森末沢線	1981	11.4	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b		R7	I																
44	反橋沢橋	ソリハン萨拉ハシ	反橋線	1990	7.4	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 下部工：漏水・滞水	R7	Ⅱ	基礎底面下までの洗掘は見られていないため構造物の機能に支障は見られない													未定		
45	かじか橋	かジカハシ	白川窓塞線	2000	56.2	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○	R2	I b	床版：漏水・遊離石灰 防護柵：変形・欠損 路面：舗装の異常 下部工：漏水・遊離石灰	R7	I																
46	油小沢橋	アブラサワハシ	立小路線	1970(推定)	3.5	6.6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	対症	○	○	○					○	R2	I a	床版：漏水・遊離石灰 伸縮装置：漏水・滞水	R7	Ⅱ	橋台基礎底面つま先部の洗掘は構造物の機能に支障を生ずる可能性があるが、下流側に洗掘防止の袋詰め玉石が設置されており、早期の対策が予定され、機能の改善が見込まれていることから判定Ⅱとする。	○										河床低下による洗掘の為、袋詰玉石等設置し、埋め戻す。	300	単独費での施工		
47	下野橋(仮称)	シモノハシ	下小路下野線	1978	2.5	5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	対症	○	○	○					○	R2	I a	床版：剥離・鉄筋露出・うき 地覆：変形・欠損	R7	I																
48	2号橋	ニコウハシ	富沢道の下線	1978(推定)	2.2	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	対症	○	○	○					○	R2	I a	床版：床版ひびわれ 伸縮装置：漏水・滞水	R7	I																
49	末沢橋	スエザワハシ	前森向町線	1967	34.09	4.5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○				R8																	
50	前森橋	マエモリハシ	前森向町線	1981	46.75	6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8													H30修繕完了			
51	綱出橋	キヌデハシ	本城向町線	1957	90.8	7.5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
52	義経大橋	ヨシツネオオハシ	瀬見温泉街線	1925	90	10	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8													未定			
53	森ノ腰橋	モリノコハシ	白川端大堀線	2021	5.5	4.8	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R7	I															
54	中沢橋	ナカザワハシ	松根塚田線	1995	19.4	6.6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8													R3.1月架け替え竣工			
55	上堰橋	ウツエキハシ	薬師原駒杉線	1997	3.3	5.3	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
56	小倉見橋	コクラミハシ	仲神小倉見線	1973	33.42	3	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
57	野小倉橋	ノコクラハシ	笹森分校線	1963	4.3	3.6	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
58	向居橋	ムカイハシ	笹森分校線	1963	28.26	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
59	西野又橋	ニシノマタハシ	大森線	1962	20.06	3.3	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8													H29修繕完了			
60	笈之沢橋	オイノサワハシ	笈之沢線	1930	2.5	7	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
61	見性寺橋(仮称)	ケンショウジハシ	見性寺線	1957	2	3.4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
62	旗の沢橋(仮称)	ハタノサワハシ	旗の沢線	1958	4	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
63	道の下橋	ミチノタハシ	道の下線	1986	3	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
64	農道(2)橋(仮称)	ノドウハシ	農道(2)	1966	4.8	4	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																
65	綱出橋歩道橋	キヌデハシ'トウキョウ	本城・向町線	不明	92.8	1.5	最上町	山形県	最上町	無し	無し	無し	予防	○	○	○					○					R8																

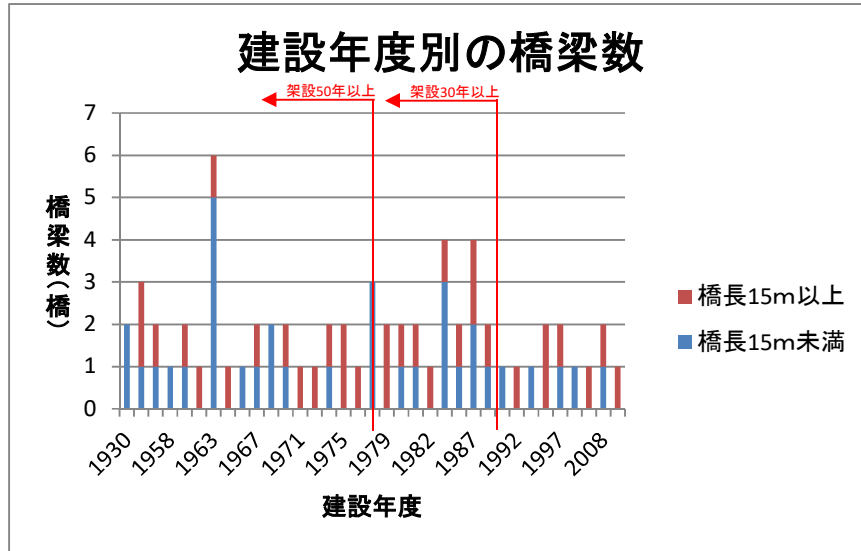
橋梁名	判定 区分	点検 年度	橋長	R8.3月時点 修繕・撤去スケジュール														概算設計費 (千円)	概算修繕費 (千円)	備考
				R8		R9		R10		R11		R12		R13		R14				
				設計	修繕	設計	修繕	設計	修繕	設計	撤去	設計	撤去	設計	修繕	設計	修繕			
親倉見橋	Ⅲ	R7	36.8			○			○									5,800	30,000	修繕
富沢橋	Ⅲ	R7	113.8								○		○						70,000	撤去
西ノ又沢橋	Ⅲ	R7	16.1		○														1,000	単費
油小沢橋	Ⅱ	R7	3.5		○														1,500	単費
合計	該当橋梁数			0	2	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0			
	事業費			0	2,500	5,800	0	0	30,000	0	42,000	0	28,000	0	0	0	0			
	合計金額			2,500		5,800		30,000		42,000		28,000		0		0		5,800	102,500	

最上町 橋梁長寿命化計画[個別施設計画]

親倉見橋 個別施設計画

1. 対象施設

最上町が管理する橋梁は、令和8年3月1日時点で65橋あり、橋長2m以上15m未満は33橋、橋長15m以上は32橋あります。



2. 計画期間

定期点検(5年に1回)サイクルを踏まえ、予防保全型、対症療法型の修繕等を考慮し計画期間を設定
・令和7年度～令和12年度

3. 対策の優先順位の考え方

- ・点検結果に基づく施設全体の判定区分
- ・各部材の損傷程度
- ・路線の重要度
- ・管理区分

4. 個別施設の状態等

- ・点検・診断年度: H27年度 II(1巡目) R2年度 2(2巡目) R7年度 III(3巡目)
- ・判定区分: III判定
- ・判定区分III以上の各部材: 横構、伸縮装置

5. 対策内容と実施時期

【対策内容】

- ・鋼部材再塗装、横構交換、鏡面防水、橋面舗装、支承金属溶射伸縮装置交換、排水管交換、銘板工、詳細設計

【実施時期】

令和9年度 詳細設計
令和10年度 本工事

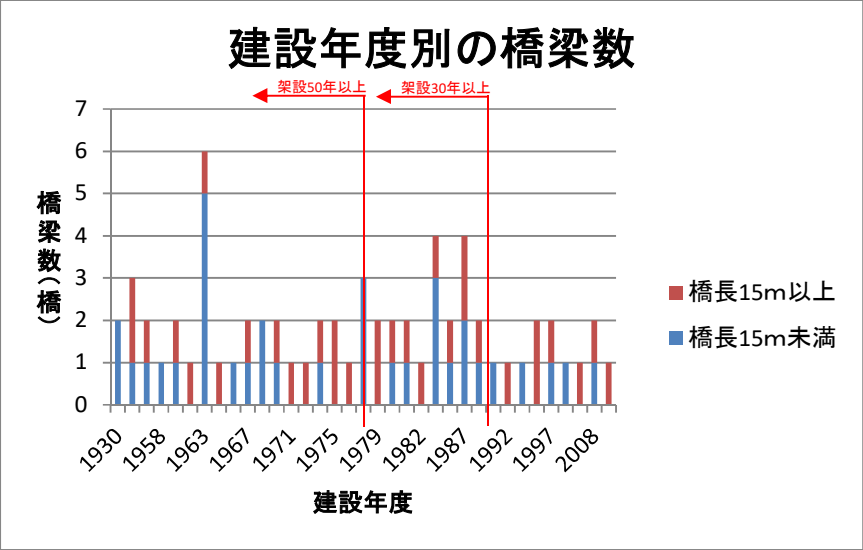
6. 対策費用

部材名	判定区分	劣化要因	損傷内容	対策内容	概算工事費(千円)
主桁	II	水掛かり	腐食b	再塗装	2,300
横桁	III b	水掛かり	腐食b	横構交換	500
床版	II	防水不良	漏水、遊離石灰d	鏡面防水・橋面舗装	3,900
支承	II	水掛かり	腐食d	金属溶射	600
下部工	I	-	-	-	-
伸縮装置	III a	-	排水構造である	伸縮装置交換	3,600
高欄・地覆	I	-	-	-	-
その他	II	経年劣化	舗装の異常c 腐食d	排水管交換、銘板工、仮設工	1,250
合計				直接工事費計	12,150
				諸経費を含んだ工事費 計比率2.3	27,945

最上町 橋梁長寿命化計画[個別施設計画]
西ノ又沢橋 個別施設計画

1. 対象施設

最上町が管理する橋梁は、令和8年3月1日時点で65橋あり、橋長2m以上15m未満は33橋、橋長15m以上は32橋あります。



2. 計画期間

定期点検(5年に1回)サイクルを踏まえ、予防保全型、対症療法型の修繕等を考慮し計画期間を設定
・令和7年度～令和12年度

3. 対策の優先順位の考え方

- ・点検結果に基づく施設全体の判定区分
- ・各部材の損傷程度
- ・路線の重要度
- ・管理区分

4. 個別施設の状態等

- ・点検・診断年度: H27年度 II (1巡目) R2年度 III (2巡目) R7年度 III (3巡目)
- ・判定区分: IIIa判定
- ・判定区分III以上の各部材: 高欄、地覆

5. 対策内容と実施時期

- 【対策内容】
- ・防護柵復旧

【実施時期】
令和8年度

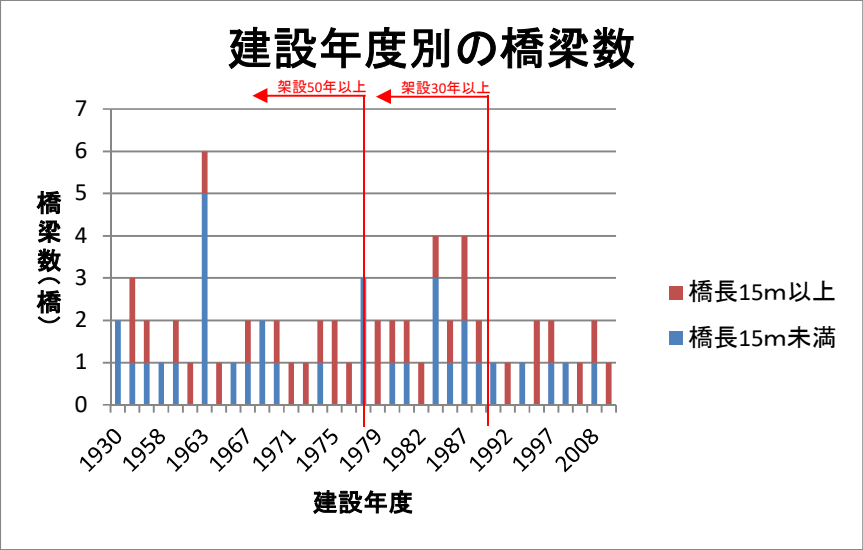
6. 対策費用

部材名	判定区分	劣化要因	損傷内容	対策内容	概算工事費(千円)
主桁	I				
横桁	-				
床版	II	経年劣化 凍害	漏水、遊離石灰d		
支承	I				
下部工	II	経年劣化	洗掘c		
伸縮装置	II	経年劣化	路面の凹凸e、漏水、滞水e		
高欄・地覆	IIIa	外力、 経年劣化	変形・欠損	高欄補修	435
その他	II	経年劣化 凍害	路面の凹凸		
合計				直接工事費計	435
				諸経費を含んだ工事費 計比率2.3	1,000

最上町 橋梁長寿命化計画[個別施設計画]
富沢橋 個別施設計画

1. 対象施設

最上町が管理する橋梁は、令和8年3月1日時点で65橋あり、橋長2m以上15m未満は33橋、橋長15m以上は32橋あります。



2. 計画期間

定期点検(5年に1回)サイクルを踏まえ、予防保全型、対症療法型の修繕等を考慮し計画期間を設定
・令和7年度～令和12年度

3. 対策の優先順位の考え方

- ・点検結果に基づく施設全体の判定区分
- ・各部材の損傷程度
- ・路線の重要度
- ・管理区分

4. 個別施設の状態等

- ・点検・診断年度: H27年度 Ⅲ(1巡目) R2年度 Ⅲ(2巡目) R7年度 Ⅲ(3巡目)
- ・判定区分: Ⅲb判定
- ・判定区分Ⅲ以上の各部材: 主桁、下部工

5. 対策内容と実施時期

【対策内容】

- ・修繕費、撤去費を比較検討した結果、撤去の方が安価であり、橋自体利用者がいないため、撤去とする。

【実施時期】

令和11年度～令和12年度

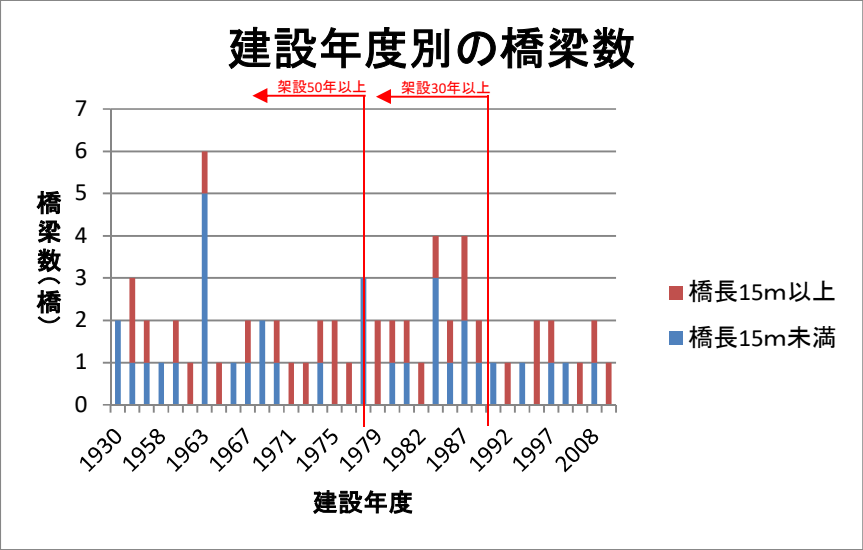
6. 撤去費用

部材名	判定区分	劣化要因	損傷内容	対策内容	概算工事費(千円)
撤去費					30,435
合計				直接工事費計	30,435
				諸経費を含んだ工事費 計比率2.3	70,000

最上町 橋梁長寿命化計画[個別施設計画]
油小沢橋 個別施設計画

1. 対象施設

最上町が管理する橋梁は、令和8年3月1日時点で65橋あり、橋長2m以上15m未満は33橋、橋長15m以上は32橋あります。



2. 計画期間

定期点検(5年に1回)サイクルを踏まえ、予防保全型、対症療法型の修繕等を考慮し計画期間を設定
・令和7年度～令和12年度

3. 対策の優先順位の考え方

- ・点検結果に基づく施設全体の判定区分
- ・各部材の損傷程度
- ・路線の重要度
- ・管理区分

4. 個別施設の状態等

- ・点検・診断年度: H27年度 I (1巡目) R2年度 I a(2巡目) R7年度 II (3巡目)
- ・判定区分: II 判定
- ・判定区分Ⅲ以上の各部材: 下部構造

5. 対策内容と実施時期

【対策内容】

- ・下部工埋戻し

【実施時期】

令和8年度

6. 対策費用

部材名	判定区分	劣化要因	損傷内容	対策内容	概算工事費(千円)
橋台	Ⅲb	洗掘	橋台つま先部の洗掘	河床埋戻し	652
合計				直接工事費計	652
				諸経費を含んだ工事費 計比率2.3	1,500